

2024年12月20日
南海電気鉄道株式会社

2025年3月22日（土）から
南海本線・泉佐野駅～和歌山市駅の一部の普通車において
ワンマン運転を実施します

～今後の生産年齢人口減少により、乗務員の確保が難しくなるなか、限られた経営資源を有効に活用しながら列車本数を維持し、持続可能な鉄道事業の実現を目指してまいります～

南海電気鉄道株式会社（社長：岡嶋 信行、以下「南海電鉄」）は、南海本線・泉佐野駅～和歌山市駅において、8300系車両を使用する4両編成「普通車」の一部を対象に、2025年3月22日（土）（予定）からワンマン運転を実施します。

ワンマン運転に伴うハードウェア対策として、ワンマン運転対応車両（8300系車両）には「車両側面カメラ」を、ワンマン運転をする南海本線・泉佐野駅～和歌山市駅のすべての駅には、「進出用非常通報装置」を設置しました。

「車両側面カメラ」は、1両につき片側2台、計4台設置し、車両側面とホームの様子を撮影し、その映像が運転席のモニタに表示され、運転士は車両側面付近の様子を確認した後、列車を発車させます。

また、車掌が乗務する列車では、列車出発後に車掌が^(※)ホーム非常通報装置の動作の有無を確認しますが、ワンマン運転区間で運転士がホーム非常通報装置の動作を確認できるよう、ワンマン運転を実施するすべての駅（14駅89か所）に「進出用非常通報装置」を設置しました。その他、運転士が誤ってホームの無い側の扉を開ける操作をしても、扉が開かないようにする誤開扉防止装置を導入することで、ワンマン運転時においても車掌が乗務する列車と同等の安全性が担保できるようにしました。

（※）ホーム非常通報装置

ホーム上に設置された列車非常停止ボタンが扱われたときに明滅する装置

今後、生産年齢人口の減少に伴い、乗務員の確保が難しくなることが予想されます。そのため、限られた経営資源を有効に活用し、一定の列車本数を維持するために、ワンマン運転の実施を決定しました。これにより、持続可能な鉄道事業の実現を目指してまいります。

詳細は以下のとおりです。

1. 実施日 2025年3月22日（土）（予定）
※2025年1月より乗務員に対して習熟運転を実施します。
2. 対象区間 南海本線・泉佐野駅～和歌山市駅（30.2km）

3. 対象列車 8300系車両を使用する4両編成の「普通車」の一部

※ 特急、急行、空港急行、区間急行、準急、6両で運転する普通車を除く。

※ 8300系車両を使用する4両編成の「普通車」でも、一部の列車には車掌が乗務します。

4. 安全対策

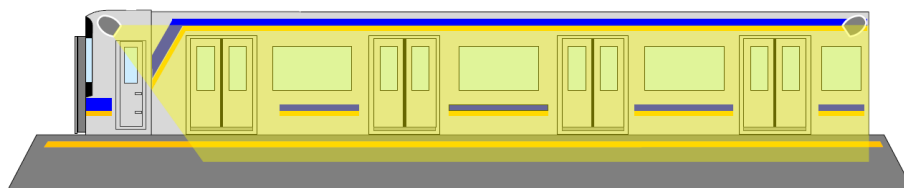
①8300系車両に「車両側面カメラ」を設置

8300系車両1両につき片側2台、計4台の「車両側面カメラ」を設置しました。車両側面とホームの様子を撮影し、その映像が運転席のモニタに表示され、運転士は車両側面付近の様子を確認した後、列車を発車させます。

「車両側面カメラ」は、2022年6月から検証を行い、夜間や悪天候時などの低照度下でも十分な視認性を確保でき、明暗差がある環境下でも鮮明に映すことが確認できました。



車両側面カメラの撮影範囲



②ワンマン運転区間のすべての駅に「進出用非常通報装置」を設置

ワンマン運転区間でホーム非常通報装置の動作を運転士が確認できるよう、ワンマン運転を実施するすべての駅(14駅89か所)に「進出用非常通報装置」を設置しました。列車出発時に運転士が前方確認しながら見える位置に設置しています。

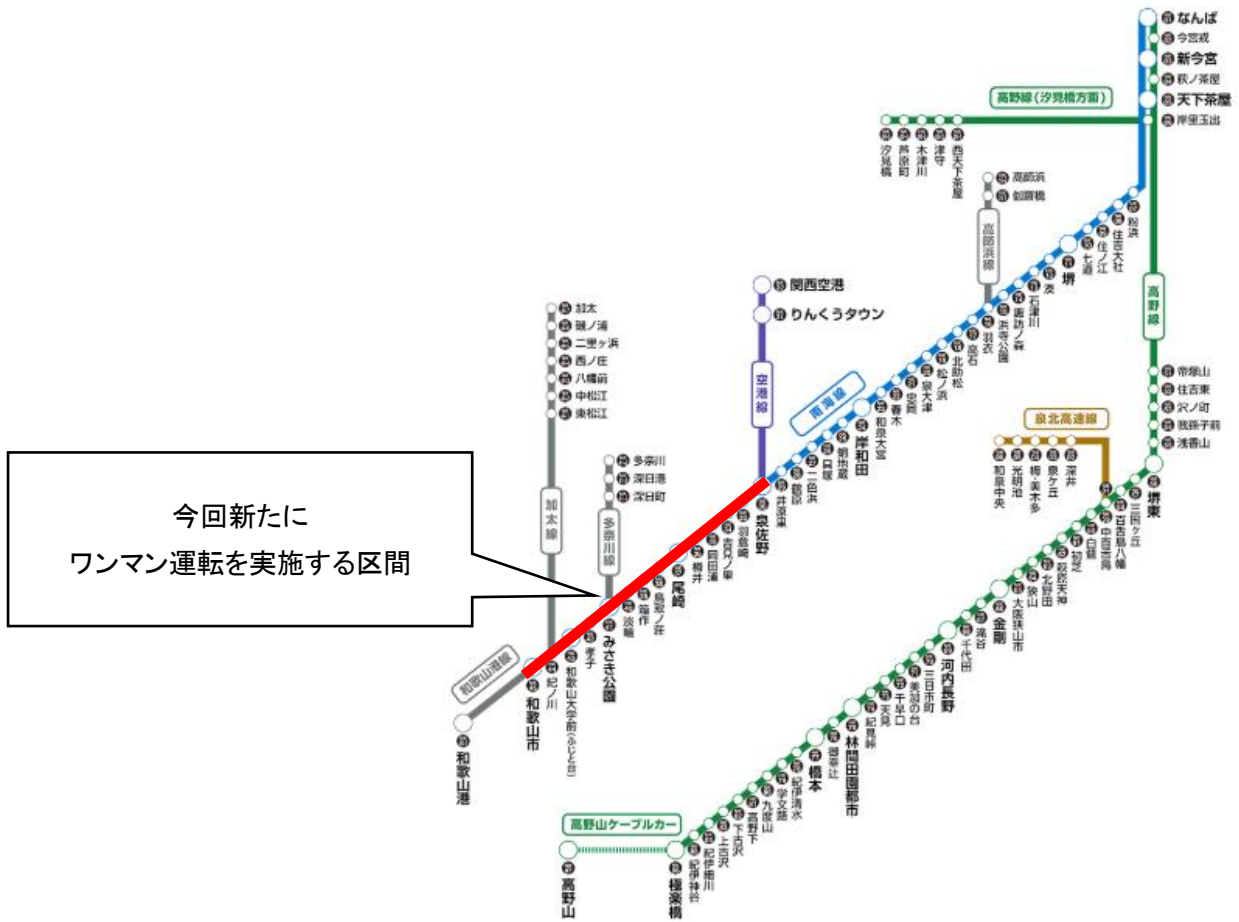


③誤開扉防止装置の設置

運転士が誤ってホームの無い側の扉を開ける操作をしても、扉が開かないようにする誤開扉防止装置を導入することで、ワンマン運転時においても車掌が乗務する列車と同等の安全性が担保できるようになりました。

5. その他

ワンマン運転は2000年以降順次導入しています。これまで、高野線・汐見橋駅～岸里玉出駅、橋本駅～極楽橋駅(2両編成のみ)と、高師浜線、多奈川線、加太線、和歌山港線(2両編成のみ)の各支線区間においてワンマン運転を実施しています。



今回新たに
ワンマン運転を実施する区間

以上